新発見！前橋・高崎の歴史

前橋・高崎連携事業

東国千年の都

発掘された タ・カ・ラ・モ・ノ

最新の調査で発掘された遺跡と
出土品の数々・・・
ここから前橋・高崎の
新しい歴史が見えてくる。

前橋

上野国府跡
元総社蒼海遺跡群
史跡山王廃寺跡
総社古墳群
南部拠点地区遺跡群
上細井北遺跡群
南橋東原遺跡
山王若宮Ⅳ遺跡
女屋宮田遺跡
六供遺跡群

高崎

史跡井出二子山古墳
上中居遺跡群
史跡日高遺跡
山名古墳群
上里見新井遺跡
上豊岡引間遺跡
長根遺跡群
棟高遺跡群
史跡箕輪城跡
高崎城遺跡

など

前橋・高崎連携文化財展の開催にあたって

本事業は、前橋・高崎両市の所蔵する豊かな歴史資産を、両市の皆さんに広く公開し、有効活用を図るという目的のもと平成19年度から開催しており、今年で４年目を迎えます。毎年、多くの皆さんにご来場いただき、前橋・高崎両市から出土した貴重な文化財を知り、それぞれの地域の特性を知っていただく絶好の機会とすることができていると思っております。

さて、今回の企画は、現在もなお、各地で進められている発掘調査の最近の成果から、選りすぐった遺跡や出土品を紹介します。
前橋市では、元総社町蒼海地区の区画整理事業に伴う発掘調査の成果を中心に、古代上野の国の中枢であった上野国府に迫ります。

高崎市では、整備が進む史跡日高遺跡や、整備工事が終了した史跡井出二子塚古墳の調査成果を中心に、それぞれで詳しい解説を行っています。
前橋・高崎両市では、今も現在進行形で、土に埋もれた過去からの「タ・カ・ラ・モ・ノ」が発見されています。この「タ・カ・ラ・モ・ノ」を、新たな地域資源として活用していくことが、前橋と高崎両市の絆をさらに強くするものと思っております。どうぞ、ごゆっくりとご観覧ください。

前橋市長　高木政夫
高崎市長　松浦幸雄

主催：前橋市・前橋市教育委員会／高崎市・高崎市教育委員会

後援：上毛新聞社・朝日新聞前橋総局・毎日新聞前橋支局・読売新聞前橋支局・ＮＨＫ前橋放送局・群馬テレビ(株)・(株)エフエム群馬・(株)ラジオ高崎

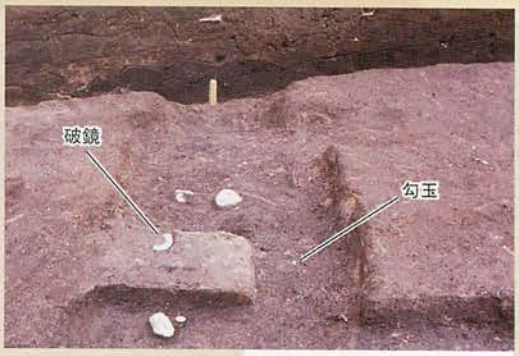
上中居遺跡群 高崎市上中居町

井野川泥流層を基盤とする高崎台地上に立地する。

調査の結果、縄文時代・古墳時代・奈良時代から中近世にかけての遺構・遺物が大量に検出された。縄文時代中期から後期にかけての遺物がまとまって見つかるのは、この地域では珍しいことである。また、古墳時代前期の竪穴住居跡や方形周溝墓に伴う遺物も多量に出土している。

【破鏡について】

破鏡とは意図的に割って分割した鏡のことで、割れた面を磨いたり、穴をあけてペンダントにした場合もある。本遺跡で出土した破鏡は、上方作系浮彫式獣帯鏡と呼ばれるものに類似しており、2世紀後半～3世紀初頭に製作された可能性が高い。この鏡が廃棄されたのは5世紀頃と考えられ、製作されてから廃棄されるまで約200年もの間、人から人へ伝えられたことになる。



▲遺物出土状況

管玉・勾玉・破鏡▶

史跡日高遺跡 高崎市日高町・中尾町

榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地が、前橋台地に移行する地域に立地する。昭和52年に関越自動車道建設に伴う発掘調査で発見され、平成元年には国の史跡に指定された（約63,000m^2）。

保存整備事業に伴う発掘調査の結果、弥生時代後期の環壕集落・生産域（水田跡）・墓域がセットで保存された遺跡であることが明確になり、東日本の弥生時代集落を考える上で非常に重要な遺跡であることがわかった。環壕集落は約12,000m^{2}の広さがあり、環壕は幅約3m・深さ約1.6mの規模がある。環壕に内側には、土塁状の盛土があった可能性がある。

現在は、JR上越線北側区域の整備工事を実施しており、平成25年度には一部開園できるよう事業を進めている。

◆弥生時代の環壕

◆土器棺出土状況

上豊岡引間遺跡 高崎市上豊岡町

烏川と碓氷川に挟まれた八幡台地の烏川右岸段丘上に立地する遺跡である。

調査の結果、弥生時代後期から古墳時代中期にかけての集落跡をはじめ、古墳時代前期の畠跡（畝間溝）などもみつかった。周辺では、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が多く発見されており、大規模集落の存在が予想される。本遺跡はその一部とも考えられる。

◆5号住居跡

下芝五反田遺跡 高崎市箕郷町下芝

榛名白川と井野川に挟まれた白川扇状地に立地する。

調査の結果、平安時代の水路、中世のものと考えられる耕具痕、古墳時代以降の泥流で埋没した畠、水場と思われる低地、道路、土器集積遺構が発見された。土器集積遺構は、当時の畠と低地の間に多くの土器が重ねて置かれたものであり、人々の信仰の一端をうかがい知ることのできる重要な遺構である。

◆1号土器集積

史跡井出二子山古墳 高崎市井出町

保渡田古墳群(井出二子山古墳・保渡田八幡塚古墳・保渡田薬師塚古墳)はいずれも100m級の前方後円墳で、5世紀後半に築造されたと考えられている。

整備工事が完了した保渡田八幡塚古墳につづいて、井出二子山古墳を整備するために調査した結果、墳長が108mで墳丘の外側には二重の堀と4つの円形の中島があることがわかった。中島では地元でつくられた須恵器が出土しており、墳丘には円筒埴輪や朝顔形埴輪が並べられていたことも確認された。

後円部の埋葬部には、舟形石棺とよばれる棺が納められていた。この棺は大王や他地域の大首長クラスのものと類似することがわかっている。埋葬部からは、玉類(ガラス玉や管玉)・武具・馬具・武器(鉄鏃・鉄刀・鉄鉾)・金製の装飾具・金銅製の装身具などが出土した。馬具や装身具には朝鮮半島製と考えられるものもある。

井出二子山古墳は保渡田古墳群では最も古い古墳であり、榛名山東南麓部の開発を主導した「偉大な開拓者(英雄)」の墓と考えられる。

◆上:井出二子山古墳
◆右:南くびれ部の埴輪列
◆下列左から:金製装飾具／朝顔形埴輪と円筒埴輪／ガラス玉や管玉などの装飾品／主体部の舟形石棺

山名古墳群 高崎市山名町

高崎市の南部を流れる鏑川と観音山丘陵に挟まれた場所に立地する遺跡である。史跡公園として整備するための発掘調査の結果、史跡地内には前方後円墳である伊勢塚古墳(75m)のほかに、帆立貝形古墳1基と円墳が15基あることが明らかになり、6世紀から7世紀に築造されたものであることも判明した。戟形埴輪・帽子形埴輪や歯のある人物埴輪など、他ではあまり確認されていない埴輪が出土しており、この古墳群をつくった勢力の性格を考えるうえで重要な資料と考えられる。

◆古墳群全景

上里見新井遺跡 高崎市上里見町

高崎市西部榛名地区の烏川北西岸に立地する。調査の結果、墳丘はすでに削られていたものの、古墳2基の周堀が見つかった。1号古墳からは、2個体の須恵器大甕が出土しており、底部が故意に打ち割られた状況であった。出土遺物からみて、これらの古墳は7世紀前半頃の構築と考えられる。

◆調査区全景

長根遺跡群 高崎市吉井町長根

鏑川右岸の台地に立地する遺跡で、天引川と大沢川の間を便宜的に長根遺跡群と呼称している。和銅4年(711)に設置された多胡郡の韓級郷・織裳郷があったと考えられている地域に相当する。

調査の結果、おもに弥生時代から平安時代の遺構がみつかっており、竪穴建物跡は約780棟が確認されている。また、天引川右岸には安坪古墳群が、大沢川左岸には神保古墳群が存在し、安坪古墳群では装飾大刀が出土している。

長根遺跡群で特徴的な遺物としては、折茂地区で集中して出土している畿内系暗文土師器の模倣品と、上高原地区で出土している則天文字が墨書された土器などがあげられる。

棟高遺跡群(棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡) 高崎市棟高町

榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地が前橋台地に移行する地域に立地する遺跡である。

調査の結果、古墳時代終末期(7世紀)から平安時代にかけての集落跡や畠跡などがみつかった。古墳時代終末期では、竪穴建物跡55棟のほかに掘立柱建物跡・井戸跡・畠跡が確認され、榛名山の噴火による被災後の集落の営みを解明するための重要な資料がえられた。平安時代では、110棟もの竪穴建物跡や鍛冶遺構がみつかり、石製の腰帯具(丸鞆)や硯など官人層の所有物や墨書土器・瓦塔の破片なども出土している。国府や国分寺等、上野国中心地近隣の集落の様子を知る上で貴重な資料といえる。

◆調査区全景

全徳森遺跡 高崎市箕郷町生原

榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の西端に立地する遺跡である。

ここで確認された配石墓は、直径10～45cmほどの石で木の棺を覆っている墓で、灰釉陶器・鉄製品(釘？)・骨片がみつかった。鉄製品には木片が付着しており、棺に使われていた釘とも考えられる。平安時代の墓の構造を知る上で、貴重な資料である。

◆配石墓

史跡箕輪城跡 高崎市箕郷町西明屋・東明屋

西暦1500年頃、長野氏が築城したのが始まりとされる。永禄9年(1566)に武田氏の西上州支配の拠点として整備され、天正10年(1582)に武田氏が滅亡すると後北条氏が支配することとなった。天正18年(1590)の小田原征伐で開城後、徳川家康の家臣であった井伊直政が入城したが、慶長3年(1598)に高崎に居城を移すことによって廃城となった。

整備のための発掘調査の結果、石垣・門・掘立柱建物跡などが確認されるとともに、3時期にわたる城の変遷が明らかになった。これらの成果をもとに、平成22年度には『史跡箕輪城跡保存整備基本設計』を策定した。

今後は、復元整備に必要な発掘調査をおこない、実施設計・整備工事と事業を進めていく計画である。

◆御前曲輪西虎口

高崎城遺跡 高崎市高松町

高崎台地西端の烏川左岸段丘上に立地する遺跡である。

調査の結果、高崎城の本丸堀・二ノ丸堀や石垣水路・石樋などが確認された。堀は石垣をもたない素掘りの堀で、深さが7m以上ある。石垣水路は本丸堀と二ノ丸堀の水の循環や水量調整のために設けられたと考えられており、高崎城築城期には造られていたと思われる。石垣水路埋没後の18世紀後半には、同じ場所に石樋が設置されている。

石垣水路は、築城期の高崎城を知る貴重な遺構であり、一部の移築・復元をおこなった。

◆調査区全景

元総社蒼海遺跡群 前橋市元総社町・総社町総社

前橋台地西部に位置し、東西1,000m、南北800mの範囲で、その中心は牛池川と染谷川に挟まれた微高地上にある。

本遺跡群及びその周辺は、古墳時代後期から終末期までの中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群・山王廃寺、律令期には上野国府・国分僧寺・国分尼寺が建立され上野国の中心的な地域となっている。また、中世になると蒼海城が築かれた場所である。

平成12年度から現在までの57次にわたる調査の結果、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世の遺構・遺物が大量に検出されている。

◆青白磁梅瓶

上野国府跡 前橋市総社町総社

上野国府は、元総社町の総社神社の一帯に存在したと推定されてきた。近年の調査で、牛池川から祭祀に使った人形や国府の建物の名称が書かれた土器が多くみつかった。また、関越自動車道路の調査で鳥羽町から古代の神社跡や鍛冶工房が発見されており、この地域一帯が国府の範囲であることがおぼろげながら判明しつつある。

栃木県の下野国府では、約95m四方の国庁域を中心に役所の建物群や道路・溝が計画的に配置され、その範囲は、西500m以上、南北1,000m以上に及んでいた。上野国も、国庁を中心とした官庁街と庶民が暮らすマチで構成されていたと考えられる。

◆上野国府周辺の市の様子(想像図)

総社古墳群 前橋市総社町総社

前橋市西北部の利根川西岸に位置し、南北2.5km、東西1kmの範囲に分布する古墳群の総称である。大型前方後円墳(遠見山古墳、王山古墳、総社二子山古墳)と大型方墳(愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳)から構成される。

5世紀終末の遠見山古墳から6世紀後半の総社二子山古墳までは前方後円墳であり、7世紀前半の愛宕山古墳から7世紀終末の蛇穴山古墳は方墳である。時代による墳形の変化は、畿内の首長墓の変遷過程と同一である。

なお、群馬県内の7世紀の大型古墳は、総社古墳群の3基の方墳以外には見られない。

◆愛宕山古墳の石棺

史跡山王廃寺跡 前橋市総社町総社

山王廃寺は前橋市総社町総社にある古代寺院で、7世紀中頃から後半に創建されたと考えられている。

大正時代に、山王地区日枝神社の境内で、塔心礎が偶然発見されたことでその存在が知られ、昭和3年に「山王塔阯」として国史跡に指定され、平成19年に史跡山王廃寺跡となった。昭和の調査や平成18年度から5ヵ年計画で行っている発掘調査の結果から、北に講堂、南東に塔、南西に金堂を配し、その四方80mを回廊が取り囲む法起寺式伽藍配置の壮大な寺院であったことが判明した。

◆山王廃寺の伽藍配置

総社町屋敷南遺跡 前橋市総社町総社

榛名山東麓の標高130mの台地上に位置する。平成21年度の調査で、宝塔山古墳の周堀、蛇穴山古墳の周堀と外堤と6世紀後半の竪穴住居跡、旧総社村役場跡などが確認された。

調査の結果、宝塔山古墳の周堀を含めた古墳の大きさは一辺96mとなり、蛇穴山古墳は、2重の周堀と外堤を有したことが判明し、周堀を含めた古墳の大きさは一辺82mとなった。

◆総社町屋敷南遺跡から宝塔山古墳を望む

南橘東原遺跡 前橋市日輪寺町・荒牧町

利根川低地帯上に赤城火山斜面から南西方向に放射状に広がる白川扇状地の末端付近に位置する。調査の結果、古墳～奈良・平安時代の竪穴住居跡52軒、竪穴状遺構1基、土坑3基、掘立柱建物1棟、柱穴118基、中世の溝12条が検出された。

古墳時代の住居跡のカマドは多量の川原石によって煙道部が構築され、その基部は扁平な円礫を使用しており古墳の葺石を連想させ、県内でも非常に貴重な構造をもつものである。

◆H31号住居の石組カマド

上細井北遺跡群 前橋市上細井町

赤城山南麓に源を発する小河川が南流し、開析谷によって形成された標高140～150mの舌状台地上に位置する。調査の結果、縄文時代前期の竪穴住居跡1軒・土坑2基、古墳～平安時代の竪穴住居跡が62軒・溝跡11条・土坑36基・古墳3基を検出した。

古墳はいずれも古墳時代終末期のものであり、そのうちの一つは、両袖型横穴式石室をもつ円墳であり、周堀の外側から石室にいたる土橋（渡り状施設）がみられた。

また、竪穴住居跡6軒から、6世紀初頭の榛名山噴火による火山灰（Hr－FA）の堆積が確認でき、住居跡や遺物年代を決定する貴重な資料となった。

◆発掘された両袖型横穴式石室

前橋城 前橋市大手町

前橋台地北端の利根川左岸段丘上に位置する。平成20年度に車橋門丸馬出遺構、平成21～22年度に南曲輪地点を調査した。

車橋門丸馬出遺構からは、平安時代の竪穴住居跡4軒・土坑1基、近世・近代の堀跡1条・井戸跡7基・溝跡1条等を検出し、南曲輪地点からは奈良・平安時代の竪穴住居跡2軒・土坑35基・井戸跡3基、近世・近代の堀3条、建物1棟、土坑5基、溝2条等を検出した。

調査により近世・近代の堀跡は、約120年前（幕末）の再築前橋城絵図に描かれている堀とほぼ一致することが確認された。

◆再築前橋城の縄ばり図

六供遺跡群 前橋市六供町

前橋台地の東方の利根川左岸台地上に位置する。平成７年度より土地区画整理事業に伴い調査を開始し、現在までに、古墳～奈良・平安時代の集落や古墳・平安時代の水田跡を確認している。

現在、立地や周辺地形から当時の土地利用状況の復元を試みており、発掘調査の進展により、当時の土地利用状況の一端が明らかとなってきている。

◆六供遺跡群No.5全景

女屋宮田遺跡 前橋市女屋町

桃木川・広瀬川等の中小河川が網目状に流下する旧利根川の低地帯に位置する。調査の結果、古墳～奈良時代の竪穴住居跡10軒、土坑1基、中世の溝5条、ピット5基が検出された。

古墳時代前期の竪穴住居跡からは、主に赤城山南麓地域で確認される赤井戸式系統の土器が出土しており、本遺跡が荒砥地区から続く集落の周縁部であったと考えられる。

古墳時代中期になると、本遺跡を含め周辺でも集落が増加し始める。これは、この低地帯周辺に集落を形成していた人々が、水田等の生産域拡大を図ったためと考えられる。

◆女屋宮田遺跡全景

山王若宮Ⅳ遺跡 前橋市山王町

前橋台地東端部の微高地上に位置し、東側には旧利根川河川敷の広瀬川低地帯が広がっている。調査の結果、古墳２基、古墳時代の竪穴住居跡１軒、竪穴状遺構１基、溝１条、土坑４基、柱穴５基が検出された。

検出された２基の古墳のうち１号墳は帆立貝形古墳である。墳丘のほとんどは後世の耕作等で削られていたが、周堀は明瞭であり、一部に葺石の存在も認められた。

また、古墳時代前期の竪穴住居跡や古墳墳丘下から竪穴状遺構が発見されており、古墳が築造される以前に集落等が存在したことが推測される。

◆帆立貝形古墳

南部拠点地区遺跡群 前橋市鶴光路町・下阿内町・新堀町

前橋市南東部に展開する前橋台地南部の後背湿地に立地する。平成20年度より北関東自動車道前橋南インターチェンジ周辺の土地区画整理事業に伴い発掘調査を開始し、現在まで５次にわたり調査を実施している。

調査の結果、古墳時代から平安時代の水田、土坑、溝跡等が検出されている。特に、天仁元年（1108）の浅間山の噴火により降下した火山灰（浅間Ｂ軽石）層下より、律令期の一町（109m）四方の条里制による方格地割を採用した平安時代の水田を広範囲で確認することができた。

◆平安時代の水田跡

前橋・高崎連携事業

「最近の調査で発掘された たくさんの遺跡」

前橋市

1. 元総社蒼海遺跡群
2. 上野国府跡
3. 総社古墳群
4. 史跡山王廃寺跡
5. 総社町屋敷南遺跡
6. 南橘東原遺跡
7. 上細井北遺跡群
8. 前橋城
9. 六供遺跡群
10. 女屋宮田遺跡
11. 山王若宮Ⅳ遺跡
12. 南部拠点地区遺跡群

高崎市

1. 史跡箕輪城跡
2. 全徳森遺跡
3. 上里見新井遺跡
4. 下芝五反田遺跡
5. 史跡井出二子山古墳
6. 棟高遺跡群
7. 史跡日高遺跡
8. 上豊岡引間遺跡
9. 高崎城遺跡
10. 上中居遺跡群
11. 萩原沖中遺跡
12. 山名古墳群
13. 長根遺跡群

体験コーナー開催中
縄文土偶をつくろう！

平成22年度前橋・高崎文化財展

前橋会場
入館無料
主催：前橋市・前橋市教育委員会

2011年1月8日[土]▶17日[月]
午前9時▶午後6時
[前橋プラザ元気21 1Fにぎわいホール]
前橋市本町2-12-1
問い合わせ TEL. 027-231-9531
前橋市文化財保護課

高崎会場
入館無料
主催：高崎市・高崎市教育委員会

2011年1月22日[土]▶31日[月]
午前9時▶午後6時
[高崎シティギャラリー 2F 第6展示室]
高崎市高松町35－1
問い合わせ TEL. 027-321-1292
高崎市文化財保護課

「上野国印」は2種類あります。（いずれも文書に押されたものから復元。）

STAMP!

◆1号スタンプ 天平勝宝4年（752年）

◆2号スタンプ 延長6年（928年）

STAMP!

「東国千年の都 ー発掘されたタ・カ・ラ・モ・ノー『新発見！前橋・高崎の歴史』」平成23年1月8日発行 前橋市教育委員会・高崎市教育委員会